

中学校部活動の自主性に関する研究  
—運動部における顧問教師と生徒の意識に着目して—

丸山 仁志 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 谷川 尚己

キーワード：自主性，運動部活動，中学校

### 1. 緒言

2008年に改正された中学校学習指導要領総則の中において、部活動の位置づけが初めて明記された。しかし、一部に見られる勝利至上主義的な運動部活動の在り方を見直すなどの問題が浮き彫りとなっており、部活動において「児童生徒の主体性を尊重した運営」が十分に浸透していない現状にあるとしている。ところで、顧問教師と生徒の部活動に対する意識調査は行われているが、自主性についてのアンケートは行われていない。そこで、本研究では、顧問教師と生徒を対象に自主性に着目してアンケートを取り、今後の運動部活動の方向性を導きだそうとした。

### 2. 研究方法

本研究では、滋賀県内の中学校3校、大阪府の中学校2校の顧問教師と生徒に11項目のアンケート調査を行った。(顧問教師8名、生徒171名)

### 3. 結果と考察

「顧問教師不在時に生徒のモチベーションは低下していると思うか」「顧問教師不在時にモチベーションが低下するか」については、顧問教師も生徒も低下しているという結果であった。モチベーションを低下させないためにまず自分たちで高めあえるような環境づくりをしていかなければならないと考える。

「練習メニューや試合のメンバーを生徒達に決めさせても良いと思うか」「練習メニューや試合のメンバーは自分達で決めたいか」では、顧問教師も生徒も否定的であった。自主的に取り組み成果を挙げていく意識をもたせる

指導も重要だと考える。

「指導力向上のため取り組んでいることはあるか」「競技力向上のため自主的に取り組んでいることがあるか」では、顧問教師は否定的な回答をしていたが、生徒は肯定的な回答が大半であった。一方的で厳しい指導は嫌だが民主的運営ではうまくいかないという矛盾した状態が克服できない傾向であると考えられる。

### 4. まとめ

本研究では、中学校の顧問教師と生徒を対象にアンケート調査を実施し、結果を得た。

1) 顧問教師不在時には、生徒のモチベーションが低下傾向であるとわかった。また顧問の先生も低下していると感じていた。

2) 顧問教師は、練習メニューや試合のメンバーは生徒たちには決めさせられない傾向にあるとわかった。また、生徒たち自身も決めたくないと思っていた。

3) 顧問教師は、指導力向上のための取り組みを、あまりできていない傾向にあるとわかった。時間的負担などの問題なども考えられ、外部指導者の活用や学校全体のバックアップ体制の整備が重要であると考えられる。

#### 【引用・参考文献】

西島 央(2006)部活動—その現状とこれからのあり方.学事出版：pp12-16

文部科学省(1997)運動部活動の在り方に関する調査研究報告